



しびき



CONTENTS

8	7	7	6	5	4	3	1
平成24年度出荷実績	200Lドラム缶市場動向推移	化学工業指数の推移	鋼製ドラムは、リサイクルの優等生	識者による講演会 鎌田浩毅氏	第8回 AOSD 国際大会開催ご案内	新社長登場・JFEコンテナ(株) / 小野定男氏	理事長就任にあたって——小原知実氏



第22代理事長 就任挨拶 理事長就任に あたって



日鉄住金ドラム株式会社
代表取締役社長 小原知実

——ドラム缶工業会の新理事長に就任されました。まず、抱負をお聞かせください。

先代の賀川彰理事長の後継として、第22代理事長に就任しました。任期(3年)中の途中交代であるため、満了する2014年5月までの実質約一年間です。短期間ではありますが、精一杯業界発展のために、努力していきます。また、ドラム缶工業会理事長として、国際組織であるアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会(AOSD)の会長と国際鋼製ドラム製造業者連合会(ICDM)の副会長も引き継ぎました。

ドラム缶工業会のミッションは、会員各社の健全な発展の実現に尽きると思います。そのためには、日本の技術先進性の維持と向上を図るための「情報収集」と「業界への発信」、「規格統一・標準化」の推進がベースとなります。その一環として、国際交流の促進に取り組みたいと思います。とくに技術交流に重点を置き、東アジアにおけるドラム缶による物流の競争力強化、ドラム缶業界の発展を目指します。さらには、各社が先端的技術を駆使して新製品を開発し、需要家である化学業界、石油業界のニーズに応じて、国際競争力の強化に貢献することに取り組みます。

——ドラム缶業界の需要動向について、どのようにみられていますか。

200L新缶出荷量で見ると、ピークだった2007年度(1,580万本)までは中国向けを中心とした間接輸出が増加して右肩上がりが増えてきました。しかし、リーマンショック後の2008年度には1,300万本を割り込みました。その後に回復して2010年度には1,450万本レベルへと回復したものの、東日本大震災や円高、欧州金融不安、中国など新興国の景気スローダウンなどの影響によって、2011年度は7%減、2012年度3%減の1,310万本と下落傾向にあり、2007年度のピークから8割程度まで、稼働率が落ち込みました。

2013年度について、前年末から円高是正が進み、経済の浮揚感が高まっているものの、2013年4~6月期は4%減となっています。長引く円高期に主要需要家である化学大手が、生産拠点を海外に移転したことが影響したようです。

足元では中国景気のスローダウンの影響を受けているようですが、国内は円高是正やアベノミクスによって、自動車生産は好調に転じているほか復興需要、個人消費や設備投資も徐々にではありますが、明るさが見えつつあり、下期は、輸出・国内ともにドラム缶の需要の回復を期待しています。

— 2013年度の課題について、いかがですか？

ドラム缶需要の8割を占める化学業界の構造変化とその方向性が注目されます。今年に入っても、エチレン生産からの撤退など国内合理化と海外移転のトレンドは継続しています。ファインケミカル化といったドラム缶需要の増加につながる要因もあるので、マイナス要因ばかりではないですが、先行きは楽観できそうもありません。シェールガス革命については、具体的な影響の全貌は未知ですが、化学業界ではすでに対応が始まりつつあり、注目していく必要があります。

また、ドラム缶業界の共通課題として、素材の価格高騰問題があります。具体的には各社の問題ですが、今年世界的に鋼材価格が値上がりしており、需要家に対してご理解とご支援をいただく時期になっています。

— 国際連携について。

2013年の今年、AOSDの国際会議がタイ・パタヤで開催されます。キャッチフレーズはNew Technology Leads the Future of Steel Drums (新しい技術がドラム缶の将来を拓く)であり、ドラム用鋼板、製造・設備、補助資材、環境など広範囲にわたる分野の技術に関する多くのプレゼンテーションを予定しています。あわせて、タイ国の冷延鋼板工場やドラム缶工場の見学ツアーを計画中です。この機会に、日本の技術力をアピールすると同時に、最新技術や最新設備に関する知識の共有化も図っていく考えです。

また、ICDMとAOSDの役員会も同時開催します。とくにICDM役員会では、鋼製ドラムのセールスプロモーションとして、世界のドラム缶メーカーの統一したメッセージプラットフォームを構築し、「安全性・経済合理性が高く、環境にも優しい」という鋼製ドラムの特徴をユーザーに効果的にアピールしていくことを構想しています。新たなメディア(ビデオ)を制作し、ICDMやAOSD、ISDI(米国ドラム缶工業会)、SEFA(欧州ドラム缶工業会)のほか、会員各社のウェブサイトに掲載していくことも検討していきます。また、ICDMとして、2014年にはドイツ・デュッセルドルフで開催予定のInterpack2014(国際包装資機材専門展示会)への共同参画について論議したいと思います。

よろしくお願いたします！

役員紹介

平成25年7月1日現在

<p>■ 理事長</p>	小原 知実	日鉄住金ドラム(株)	代表取締役社長
<p>■ 副理事長</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 200L缶関係 ● 中小型缶関係 ● ペール缶関係 	小野 定男	JFEコンテナ(株)	代表取締役社長
	河島 秀行	ダイカン(株)	代表取締役社長
	野上 正道	(株)ジャパンペール	代表取締役社長
<p>■ 常任理事</p>	斎藤 邦一	斎藤ドラム罐工業(株)	代表取締役社長
	関根 利三郎	新邦工業(株)	代表取締役社長
	今井 久代	(株)東京ドラム罐製作所	代表取締役社長
<p>■ 兼監事</p>	下川 洋治	東邦シートフレーム(株)	代表取締役社長
	長尾 浩志	(株)長尾製缶所	代表取締役社長
	前田 洋	(株)前田製作所	代表取締役社長
<p>■ 兼監事</p>	山本 和男	(株)山本工作所	代表取締役社長
<p>■ 委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企画・統計委員長 ● 技術委員長 ● ペール委員長 	渡来 信介	日鉄住金ドラム(株)	取締役専務執行役員
	加藤 安功	JFEコンテナ(株)	常務取締役
	松田 賢治	(株)ジャパンペール	技術企画室室長

(注) 任期は平成26年度総会まで。

新社長 登場

JFEコンテナ株式会社

代表取締役社長 小野 定男



モットーは「Where there's a will, there's a way」(意志あれば道あり)で、社員の自主的な取り組みを重視した経営姿勢を鮮明にしている。小野定男社長は、JFE時代に培った鋼材の営業経験をベースに「変化が激しい時代なればこそ、ユーザーとしっかりと向き合い、信頼される商品やサービスの提供を通じて、信頼される会社を目指す」と意気込む。

JFEコンテナブランドの確立

ドラム缶ユーザーは、差別化した商品の開発にしを削ぎを削ぎ「こうした取り組みに対して、わが社ならではの商品、技術・物流サービスの提供を通じて、積極的に貢献していきたい」と抱負を語る。主要需要分野の化学・石油産業において国内生産が縮小傾向を示す中で「国内ドラム缶需要の縮減とユーザーの高付加価値・高機能品シフトの両面から構造変化が強まっている。業界ナンバーワンと自負する品揃えと新商品開発を通じて、ユーザーニーズに合わせた商品を提案していく」とアクション・オリエンテッドで取り組む。

会社の地力を鍛える

すべての職場で「今のやり方を棚卸しして、ユーザーや取引先からどのように評価されているかを繰り返し考え、実行していくことが大切だ。明るく元気な対応を含めて、確かな技術力、現場力に支えられた仕事を積み重ねていく」と方向性を示すとともに、「前例や人の話を鵠のみにせず、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自ら行動せよ」と社内呼びかける。

現在、国内ではグループの新潟JFE協和容器を含め5拠点を展開するが「老朽更新や品質保証、環境対応を主眼とした基盤整備設備投資を計画的に進めてきたが、ここに来て、一段落した」。今後はユーザーの高付加価値化、高機能化に対応した「国内設備の新鋭化、効率化を進めたい。生産体制の抜本的な効率化、合理化を図るため10年後のあるべき工場の姿を念頭に据えて、足元のさまざまな改善を検討、実行していく」として、絶え間なく自己改革を続ける「進化する工場」「進化する会社」を目指す。

中国ビジネスを一段と加速へ

一方の海外展開として1998年から中国市場開拓に取り組んできた。華東地区に相次いで3工場(上海、浙江、揚州)が進出し、現状ではほぼフル稼働中という。「足元の中国ドラム缶需要は、かつての2ケタ成長の増加ぶりからすると鈍化しているものの、着実に拡大している。こうしたことから、一昨年には上海工場、昨秋には浙江工場で累損解消した」と紹介する。さらに「華東地区で年間2,700~3,000万本の新缶需要があると言われており、欧米系化学メーカーによる能力増強が図られている」とする。こうしたことを受けて「今秋の浙江工場での増強が完了、2014年秋の重慶工場の完成と合わせて、年間1,000万本体制(2直フル生産時)を構築する」と中国ビジネスの拡充を急ぐ。

人材育成に期待

国内5拠点に中国4工場のほか、高圧ガス容器事業など比較的幅広い事業分野を有しており「人材育成環境には恵まれていると思う。課長になる前から中国工場の建設や操業指導を行うなど積極的に実施している。異文化の地で経験することで、大きく成長する例が多い。」と紹介。ここのところ、コンスタントな採用を行っており「若手育成にも力を入れている。工場ミーティングで課題テーマの報告を行うほか、論文発表会を毎年開催するなど全社行事として定着してきた」と手応えを得る。

小野定男社長は1953年生まれの59歳。1976年に早稲田大学政治経済学部を卒業後、川崎製鉄(現JFEスチール)に入社。鋼板輸出畑を長く歩んできた。「これまでに57カ国を訪問し、多様な文化に接してきた。文化の違いを認めて、異なる考え方を尊重することの大切さを学んだ。同時に、自らの考えを臆することなく、堂々と主張することも等しく大切だと痛感している」と振り返る。2006年営業統括部長、2007年常務執行役員、2010年に専務執行役員、2012年4月にJFEコンテナ顧問、同年6月副社長に。2013年6月に社長に。日課のウォーキングは毎日1万歩以上が目標で、休日はスイミング。旅行が趣味という。

第8回 AOSD国際大会開催ご案内

第8回AOSD国際大会が2013年11月11日、12日の二日間にわたりタイのパタヤ（ロイヤルクリフ・ホテル）で開催されます。13日はタイのサイアム・ユナイテッドスチール（冷延鋼板製造会社）、セントイメタルドラム、タイメタルドラム（ともにドラム缶製造会社）を見学するプラント・ツアーも組まれております。

今回の大会は、生産技術、設備技術、環境技術など技術に関することがメインテーマとなっております。

二日間で18の論文発表が予定されており、うち、3つは米国、欧州、アジアの各地域の生産統計に関する発表であり、15が技術に関連する発表となっております。会員会社からは次の7つの生産技術・設備技術に関する発表を予定しております（「日本におけるドラム缶の仮シールシステム状況」（斎藤ドラム罐工業・東邦シートフレーム）、「耐デント性能に優れた薄物ドラム」（JFEコンテナ）、「外観自動検査装置について」（ダイカン）、「巻締め工程におけるシーリングコンパウンド塗布監視装置について」（東京ドラム、山本工作所）、「ドラム缶拭き装置の開発・実用化」「高性能密栓機の開発・実用化」（以上の二つは日鉄住金ドラム）、「日本におけるスチールペール缶の顧客品質要求について」（前田製作所））。

残りの8つが、日本を含めた各国のドラム缶設備製造メーカー等の技術的な発表となっておりますが、海外から追加で発表の希望があり、論文数が増える見込みです。

（なお、本大会の参加登録につきまして、AOSD Web Site (<http://www.aosd.jp/>) から登録可能です）

The screenshot shows the website for the 8th AOSD International Conference. The header features the text "The 8th November 11 - 12 2013 AOSD International Conference Pattaya, Thailand". A navigation menu on the left includes "Home", "General Information", "Program", "Registration", and "Other Information". The main content area has a "Main Subject : Technology (Production / Equipment / Environment)" and a world map with a callout for Thailand. Below the map is a table of organizers and hosts. At the bottom, there is a "What's New" section with three entries dated July 2013.

Organizer	Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers(AOSDI)
Host	Japan Steel Drum Association(JSDA)
Co-Host	Saeng Thai Metal Drum Co., Ltd. Thai Metal Drum Mfg. Public Co., Ltd.
Date	November 11(Mon) - 12(Tue) Plant Tours: 13(Wed) 2013
Venue	Royal Cliff Grand Hotel@Head of State Chamber:353 Phea Tamruk Road, Pattaya, Chonburi 20150, Thailand.

What's New

- 09, July 2013 [Welcome Address from Mayor of Pattaya City](#)
- 01, July 2013 [2nd Circular](#)
- 01, July 2013 [Registration Open](#)

© 2013 Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers All Rights Reserved.
Photos by Tourism Authority of Thailand.

「次に来る自然災害」

講師：鎌田 浩毅 氏

ドラム缶工業会では、平成24年度・識者による講演会の企画として、テレビ・講演会等で科学をわかり易く解説する「科学の伝道師」、モットーは「面白くて役に立つ教授」、京大の講義は毎年数百人を集める人気の鎌田浩毅京都大学大学院教授に「次に来る自然災害」と題して講演をお願い致しました。

3・11以後地球科学から予想される災害は具体的に4つあり、それらは、①海、②陸、③火山、④西日本大震災とのことです。

- ① 東北地方の太平洋沖で起きる「余震」。
- ② 陸域で起きる「直下型地震」。
- ③ 活火山の噴火誘発。
- ④ 今から20年ほどのちに起きる「西日本大震災」。

これらからわかるように、地球科学の観点では東日本大震災は終わっていない、「巨大災害」の世紀が始まったとのことです。

多くの事例をベースにわかり易く説明して頂きました。



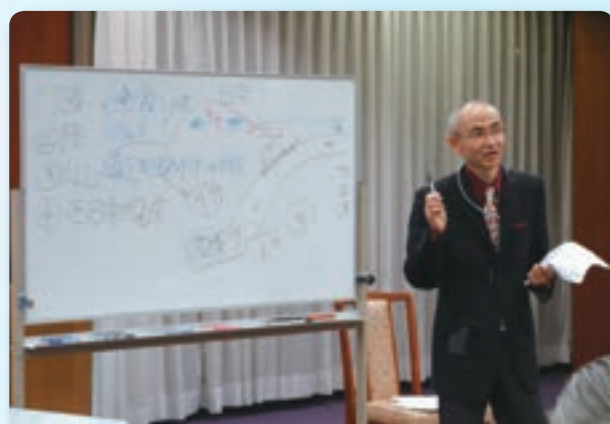
講演される鎌田浩毅氏と講演を聴きに集まった会員



冒頭、3・11後の4つの災害を提示



熱心に聴き入る会員

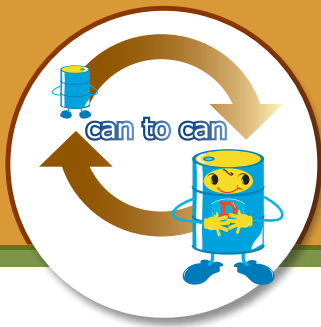


豊富な事例をベースにわかり易く説明

講師プロフィール

1955年東京生まれ。1974年筑波大駒場高校卒業。1979年東京大学 理学部地学科卒業。通産省 地質調査所主任研究官、米国内務省 カスケード火山観測所などを経て、1997年より京都大学大学院 人間・環境学研究所教授、京都大学総合人間学部教授。理学博士。日本地質学会論文賞受賞（1996年）。

主な著作：『京大人気講義 生き抜くための地震学』（ちくま新書、2013年）、『次に来る自然災害』（PHP新書、2012年）、『火山噴火—予知と減災を考える』（岩波新書、2007年）

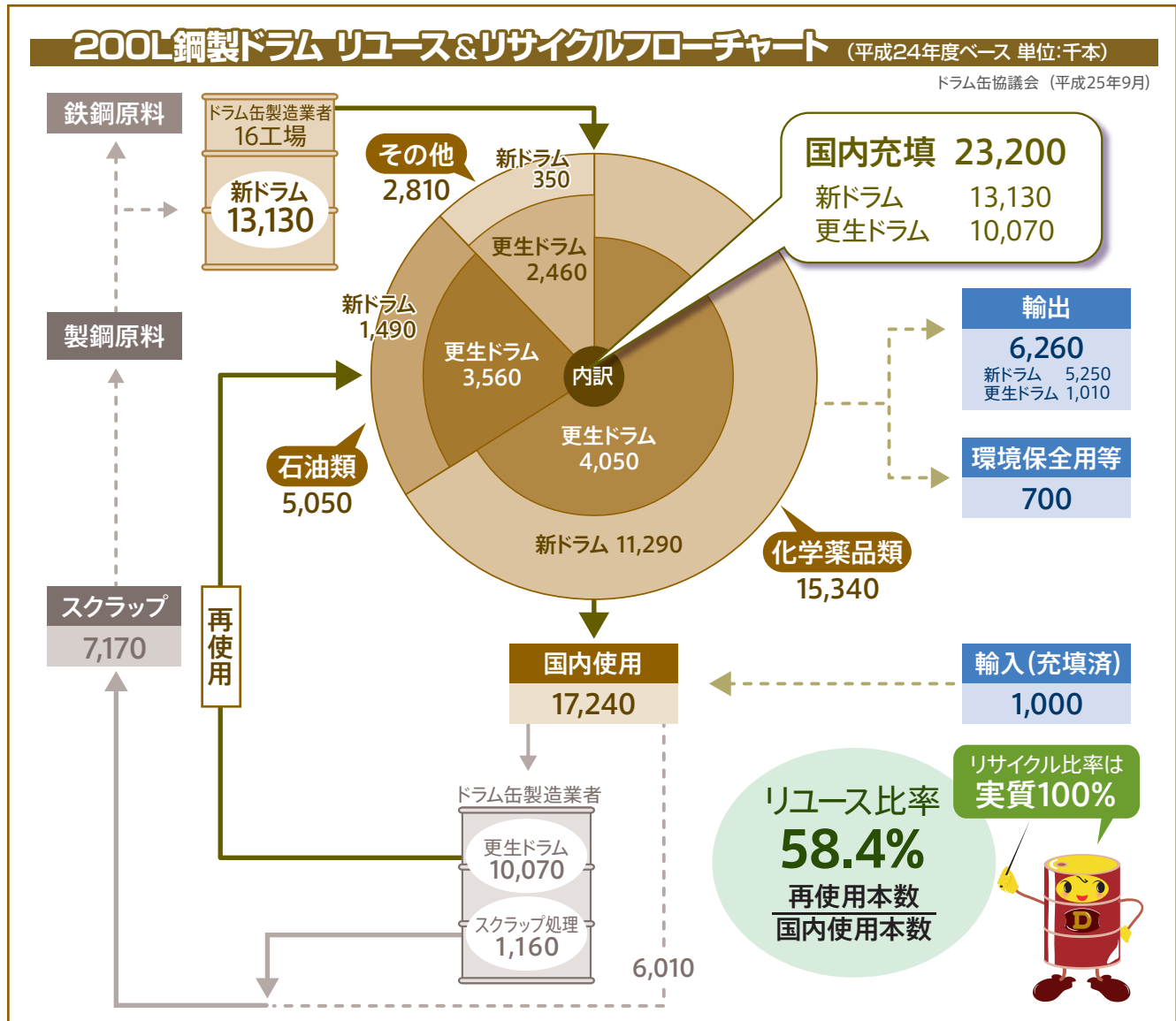


鋼製ドラムは “リサイクルの優等生”

資源としてのリサイクル比率は実質100%

鋼製ドラムは使用后、一部は更生缶メーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース（再使用）およびリサイクル（再利用）が確立しており、循環型リサイクルの

優等生といえます。下の図は平成24年度版200L鋼製ドラムリユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は58.4%になりますが、環境保全用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。

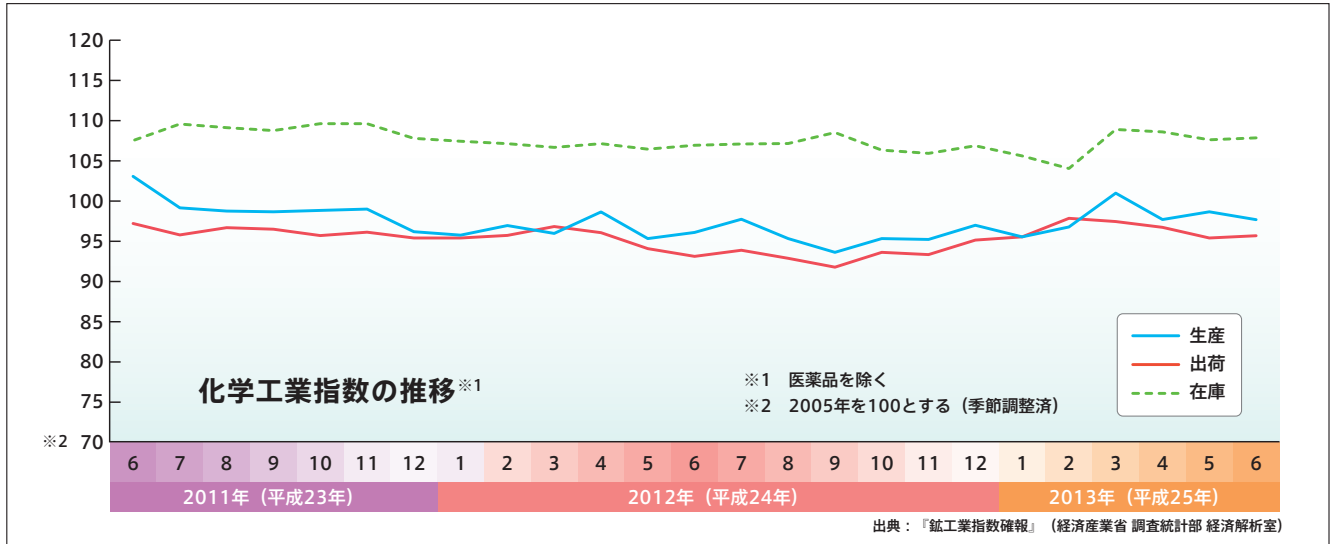


		当初 (平成9年)	19年度ベース	20年度ベース	21年度ベース	22年度ベース	23年度ベース	24年度ベース
工場数	新ドラム	18工場	17工場 (変わらず)	16工場 (▲1)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)
	製造本数							
製造本数	新ドラム	12,000千本	15,800千本 (+2.6%)	12,950千本 (▲18.0%)	13,270千本 (+2.5%)	14,520千本 (+9.4%)	13,540千本 (▲6.7%)	13,130千本 (▲3.1%)
	更生ドラム	16,000千本	13,370千本 (▲2.3%)	11,350千本 (▲15.1%)	10,820千本 (▲4.7%)	11,180千本 (+3.3%)	10,320千本 (▲7.7%)	10,070千本 (▲2.5%)
国内充填		28,000千本	29,170千本 (+0.3%)	24,300千本 (▲16.7%)	24,090千本 (▲0.9%)	25,700千本 (+6.7%)	23,860千本 (▲7.2%)	23,200千本 (▲2.8%)
国内使用		26,000千本	23,390千本 (+0.0%)	19,580千本 (▲16.3%)	18,000千本 (▲8.1%)	19,070千本 (+5.9%)	17,710千本 (▲7.1%)	17,240千本 (▲2.7%)
リユース比率		61.5%	57.2% (▲1.3%)	58.0% (+0.8%)	60.1% (+2.1%)	58.6% (▲1.5%)	58.3% (▲0.3%)	58.4% (+0.1%)

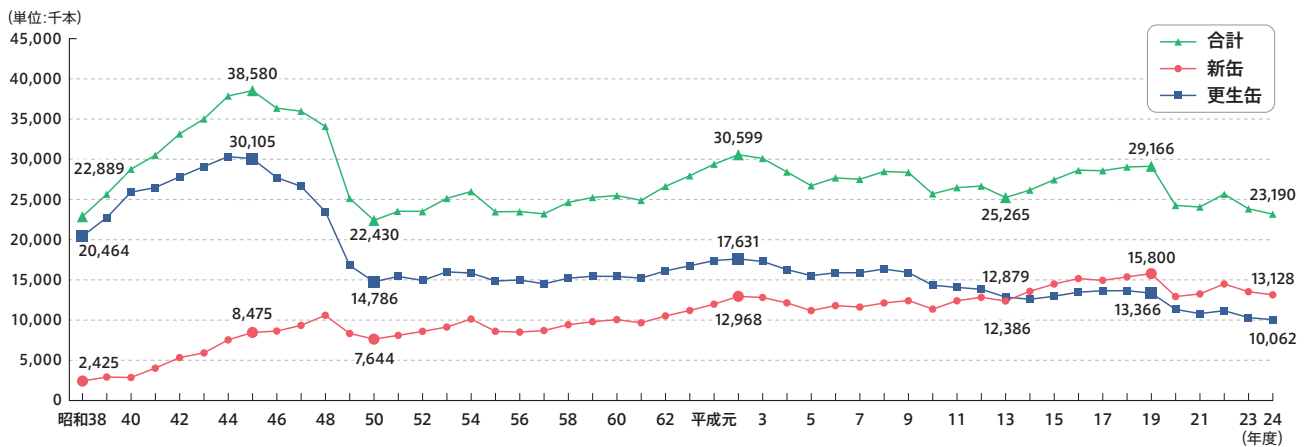


化学工業指数の推移

平成24年の化学工業（医薬品を除く）の生産動向を季節調整済指数でみると、生産は前年比▲3.7%、出荷は前年比▲3.4%と、ともに2年連続の低下、在庫は前年比0.1%と3年連続の上昇となりました。



200Lドラム缶市場動向推移（昭和38年度～平成24年度）



年度	昭和38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
新缶	2,425	2,924	2,862	4,029	5,343	5,924	7,548	8,475	8,645	9,353	10,607	8,345	7,644	8,113	8,603	9,148	10,149
更生缶	20,464	22,763	25,936	26,510	27,852	29,125	30,363	30,105	27,749	26,666	23,520	16,830	14,786	15,444	14,949	16,018	15,867
合計	22,889	25,687	28,798	30,539	33,195	35,049	37,911	38,580	36,394	36,019	34,127	25,175	22,430	23,557	23,552	25,166	26,016

年度	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8
新缶	8,613	8,518	8,710	9,436	9,810	10,070	9,674	10,523	11,212	11,993	12,968	12,822	12,156	11,189	11,814	11,636	12,142
更生缶	14,880	15,010	14,528	15,230	15,466	15,447	15,241	16,139	16,769	17,424	17,631	17,316	16,300	15,549	15,905	15,905	16,367
合計	23,493	23,528	23,238	24,666	25,276	25,517	24,915	26,662	27,981	29,417	30,599	30,138	28,456	26,738	27,719	27,541	28,509

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
新缶	12,454	11,380	12,419	12,849	12,386	13,590	14,502	15,186	14,952	15,393	15,800	12,945	13,270	14,521	13,544	13,128
更生缶	15,941	14,344	14,084	13,847	12,879	12,602	12,981	13,491	13,658	13,675	13,366	11,346	10,817	11,184	10,320	10,062
合計	28,395	25,724	26,503	26,696	25,265	26,192	27,483	28,677	28,610	29,068	29,166	24,291	24,087	25,705	23,864	23,190

（注）1. 千本以下四捨五入。 2. 昭和38年度の新缶生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンを40年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

平成 24 年度出荷実績

平成24年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ3.1%減、417千本減の13,128千本と減少しました。

用途別では、石油向け（前年度比12.3%減、209千本減）、化学向け（同1.8%減、199千本減）、食料品向け

（同2.9%減、6千本減）は減少し、塗料向け（同0.8%増、5千本増）は増加しました。

ペール缶は前年度比3.0%減の18,968千本、中小型缶は同13.6%減の602千本と減少になりました。

平成24年度缶種別・用途別出荷実績

缶種	平成24年度実績							トン数
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別〔(本数) (千本)〕					
			石油	化学	塗料	食料品	その他	
200L缶	13,128	96.9	1,488 (87.7)	10,601 (98.2)	687 (100.8)	187 (97.1)	165 (95.0)	302,535
ペール缶	18,968	97.0	10,174 (97.9)	7,582 (95.2)	723 (114.0)		489 (88.5)	31,056
中小型缶	602	86.4		581	6		15	4,228
亜鉛鉄板缶	384			146	1	3	234	2,535
ステンレス缶	34			34				864
合計	33,115	—	11,662	18,944	1,417	190	903	341,218
*前年度比 (%)	—	—	90.2	97.5	101.9	96.6	92.4	96.5
*構成比 (%)	—	—	14.9	76.9	5.2	1.3	1.7	100.0

(注) 1. 用途別200L、ペール缶の下端()は前年度比。 2. *前年度比ならびに、*構成比は、トン数ベース。 3. 亜鉛鉄板、ステンレス缶は、200Lドラム及び中小型缶を含む。
4. 総本数は、33,115,211本。表上数値は四捨五入による差異がある。

(単位：千本)

缶種	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
200L缶	14,502	15,186	14,952	15,392	15,800	12,945	13,270	14,521	13,544
ペール缶	22,898	22,630	22,642	22,384	22,513	19,973	19,672	20,379	19,545
中小型缶	1,042	1,119	967	922	927	784	673	783	696
亜鉛鉄板缶	329	413	451	470	461	446	382	383	381
ステンレス缶	42	46	39	40	39	34	34	34	37
合計	38,813	39,394	39,051	39,208	39,740	34,182	34,031	36,100	34,203

会員

〈正会員〉

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- (株)長尾製缶所
- JFEコンテナ(株)
- 日鉄住金ドラム(株)
- (株)ジャパンペール
- (株)前田製作所
- 新邦工業(株)
- (株)山本工作所
- ダイカン(株)
- (株)東京ドラム罐製作所
- (株)東邦シートフレーム(株)
- 森島金属工業(株)

〈準会員〉

〈賛助会員〉

- エノモト工業(株)
- (株)大和鐵工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株)城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株)水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969
e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp

URL : <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.67 (平成25年9月30日発行)

発行人 ドラム缶工業会
常務理事 事務局長 本田 信裕

本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。